

—原著—

長野赤十字病院口腔外科における時間外患者の臨床統計的観察

田尻 朗子, 横林 敏夫, 清水 武, 五島 秀樹, 鈴木 理絵, 近添 真也

長野赤十字病院口腔外科
(主任: 横林敏夫 部長)

Clinico-statistical Observation of Emergency Patients on
holiday and overtime at Department of Oral and Maxillofacial
Surgery, Nagano Red Cross Hospital

Akiko TAJIRI, Toshio YOKOBAYASHI, Takeshi SHIMIZU,
Hideki GOTO, Rie SUZUKI, Shinya CHIKAZOE

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nagano Red Cross Hospital
(Chief: Dr. Toshio YOKOBAYASHI)

平成13年11月23日受付 12月1日受理

Key words: Clinico-statistical Observation (臨床統計的観察) Emergency patients on holiday and overtime (時間外患者) Oral and Maxillofacial Surgery (口腔外科)

Abstract: Emergency patients who visited Nagano Red Hospital on holidays and overtime for dental and oral surgical treatment between July 1997 and March 2000 were studied. The results were as follows:

1. The total number of patients was 659 which consisted of 381 males (57.8%) and 278 females (42.2%) with a peak in the third decade in the age distribution.
2. Thirty five patients (5.2%) were brought to our hospital by ambulance.
3. Patients living in Nagano city accounted for 76.9% of the population.
4. The patients visited us most often in August and December, on Saturday and Sunday and between 18 and 21 o'clock.
5. The use of emergency room was the first experience for 539 patients (80.8%).
6. Sixty three patients (9.4%) were referred to us, mostly from dental clinics.
7. Pain seen in 295 patients (44.2%) was the most frequently encountered chief complaint.
8. Soft tissue injuries were seen in 141 patients (21.1%). Including jaw bone fractures, trauma accounted for 43.6% of the diagnoses.
9. Forty patients were hospitalized.

With the increase of emergency patients in our hospital, the rate of patients requiring oral surgical treatment has increased. Thus our clinic functions as an important emergency institution as well for oral and maxillofacial surgery in the Nagano district.

抄録: 1997年6月から2000年5月までの3年間に、長野赤十字病院の救急外来を休日および時間外に受診した歯科口腔外科疾患患者についての臨床統計的観察を行い、以下の結果を得た。

1. 対象期間中における休日および時間外患者総数は、659名、667症例で、性別は男性381名(57.8%)、女性278名(42.2%)、年代別では、20歳代が最も多かった。
2. 来院方法は、救急車で搬送されたものは、35例(5.2%)であった。
3. 居住地別をみると、長野市内が507名と最も多かった。

4. 月別では8月, 12月が他の月より多く, 曜日別では土曜日, 日曜日が他の曜日より多かった。
5. 時間別では18時から21時が最も多かった。
6. 当科受診の既往については, 今回初めて受診した者が539名(80.8%)であった。
7. 紹介医療機関については, 文書で紹介されたものは, 63例(9.4%)で, 歯科開業医が半数を占めていた。
8. 主訴については自発痛が295名(44.2%)と最も多かった。
9. 診断では軟組織損傷が141名(21.1%)で多く, 顎骨骨折を含めた外傷が43.6%を占めていた。
10. 当日入院を必要とした者は40例(6.0%)であった。

以上, 当院の救急外来患者数は年々増加に伴い, 口腔外科的疾患の占める割合も増加しており, 救急医療においても当院が長野北信地域における口腔外科の基幹病院として重要な役割を果たしていることが示唆された。

緒 言

長野赤十字病院は, 814床25診療科を有する長野県北信地域の中核医療施設で, 1981年に救命救急センターを設置し, 北信地域(実質的には主に長野市周辺)の3次救急医療を行い, 同時に長野市医療圏の2次救急(輪番制)の約3分の2を受け持っている。当科も1983年10月の開設以来, その役割の一端を担ってきた。

近年, 週休2日制の普及や社会活動の時間帯の多様化などにより時間外に受診する患者が増えているが, 歯科口腔外科疾患の実態についての報告はきわめて少ない。そこで, 今回, 私達は, 当科における時間外患者の実態を明らかにする目的で, 1997年6月から2000年5月までの3年間に当院の救急外来を休日および時間外に受診した歯科口腔外科疾患患者について臨床統計的観察を行ったので, その概要を報告する。

対 象

対象症例は1997年6月から2000年5月までの3年間に長野赤十字病院の救急外来を休日および時間外(平日16時45分以降翌日8時半, 第2, 4土曜日12時半以降)に受診した歯科口腔外科疾患患者659名, 667例である。これは, 同期間の当院全科における休日および時間外患者42,066例の1.6%であった。

結 果

1. 性別および年齢別患者数

性別では, 男性が381名(57.8%), 女性が278名(42.2%)で男性の方が多く, 男女比は3:2であった。

年齢別では, 20歳代が175名(26.6%)と最も多く, 次いで10歳未満の160名(24.3%), 10歳代の76名(11.5%), 30歳代の75名(11.4%)の順であった。10歳未満と20歳代で全体の約半数を占めており, 以下高齢になるに従って患者数が少なくなる傾向がみられた。

なお最年少は, 生後5か月の女児で, 最高齢は96歳の男性であった。(図1)

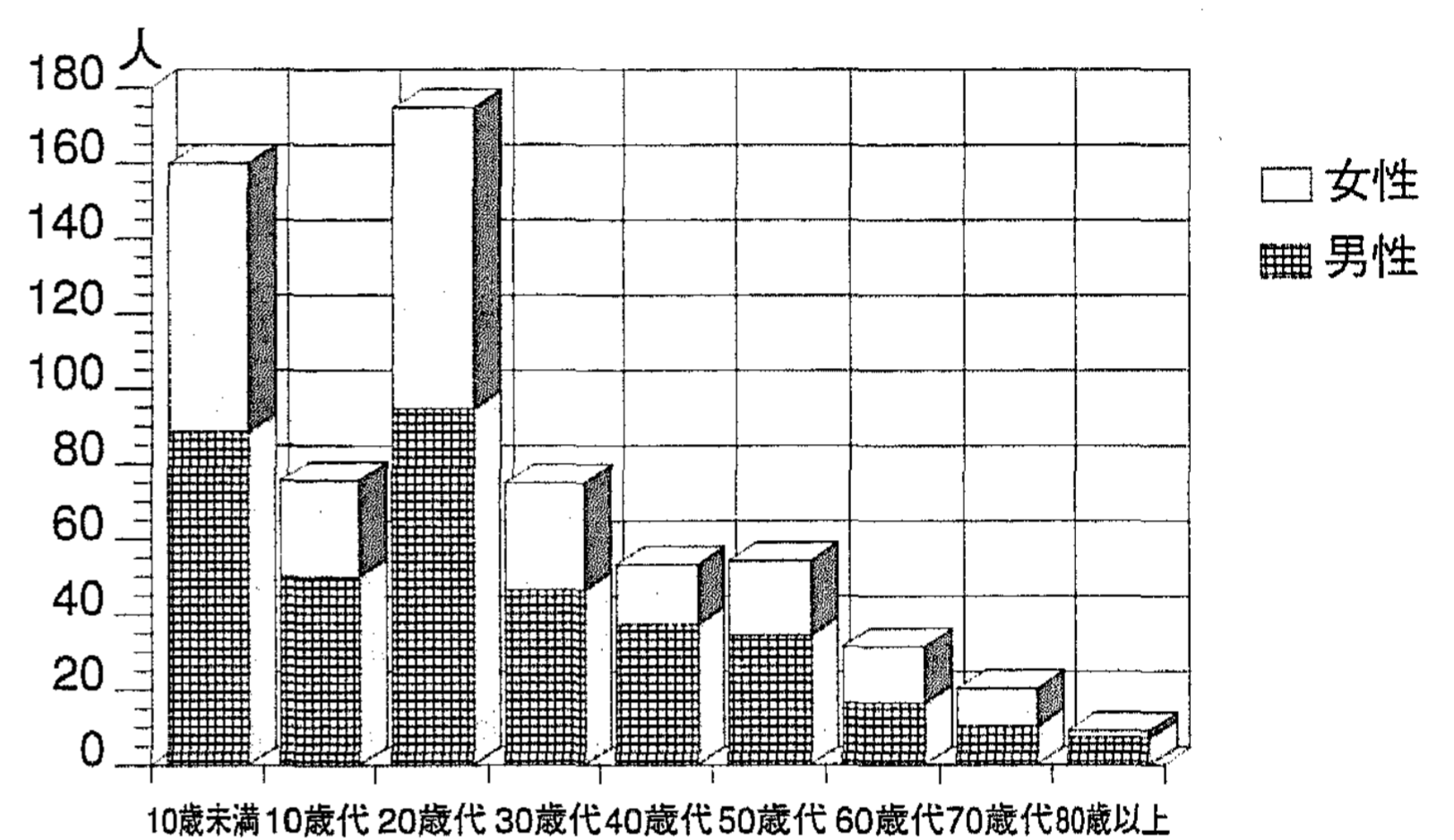


図1 性別および年齢別患者数

2. 来院方法別症例数

来院方法は, 救急車で搬送されたものは35例(5.2%)であった。なお院内入院中のものも2例(0.3%)あった。

3. 居住地別患者数

患者の居住地についてみると, 長野市が507名(76.9%)と最も多かった。長野市以外の県内は120名(18.2%)で, その内訳は長野市に隣接する上水内郡が35名(5.3%)と最も多く, 次いで, 更埴市24名(3.6%), 須坂市16名(2.4%), 埴科郡14名(2.1%)の順であった。県外も32名(4.9%)みられた。(図2)

4. 受診月別症例数

月別平均については, 8月が29例(12.9%)と最も多く, 次いで, 12月が24例(10.7%), 1月が20例(8.9%)の順であった。これに対し2月は12例(5.4%)と最も少なかった。(図3)

5. 受診曜日別症例数

曜日別については, 土曜日が149例(22.3%), 日曜日が146例(21.9%)で他の曜日より圧倒的に多数を占め

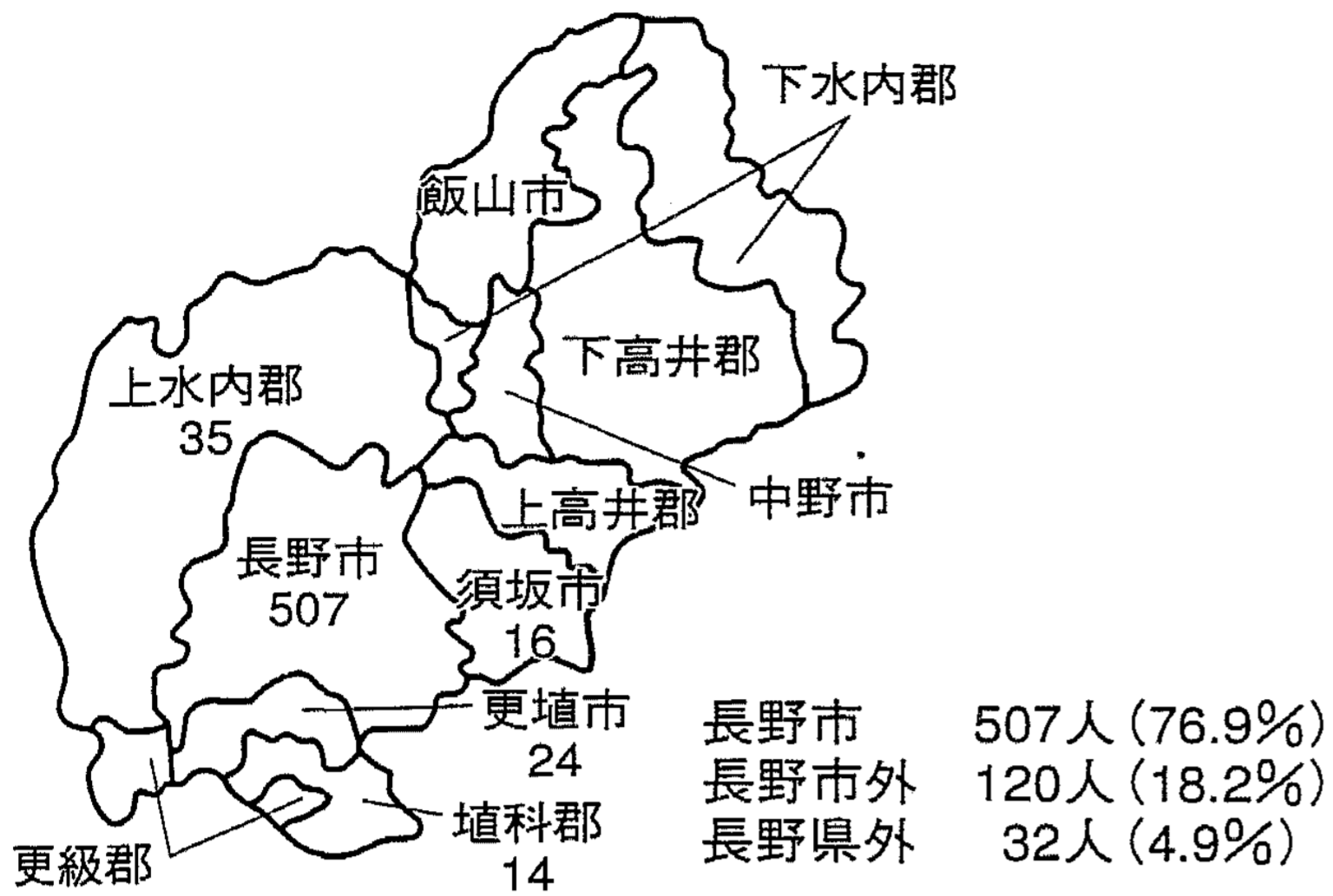


図2 居住地別患者数

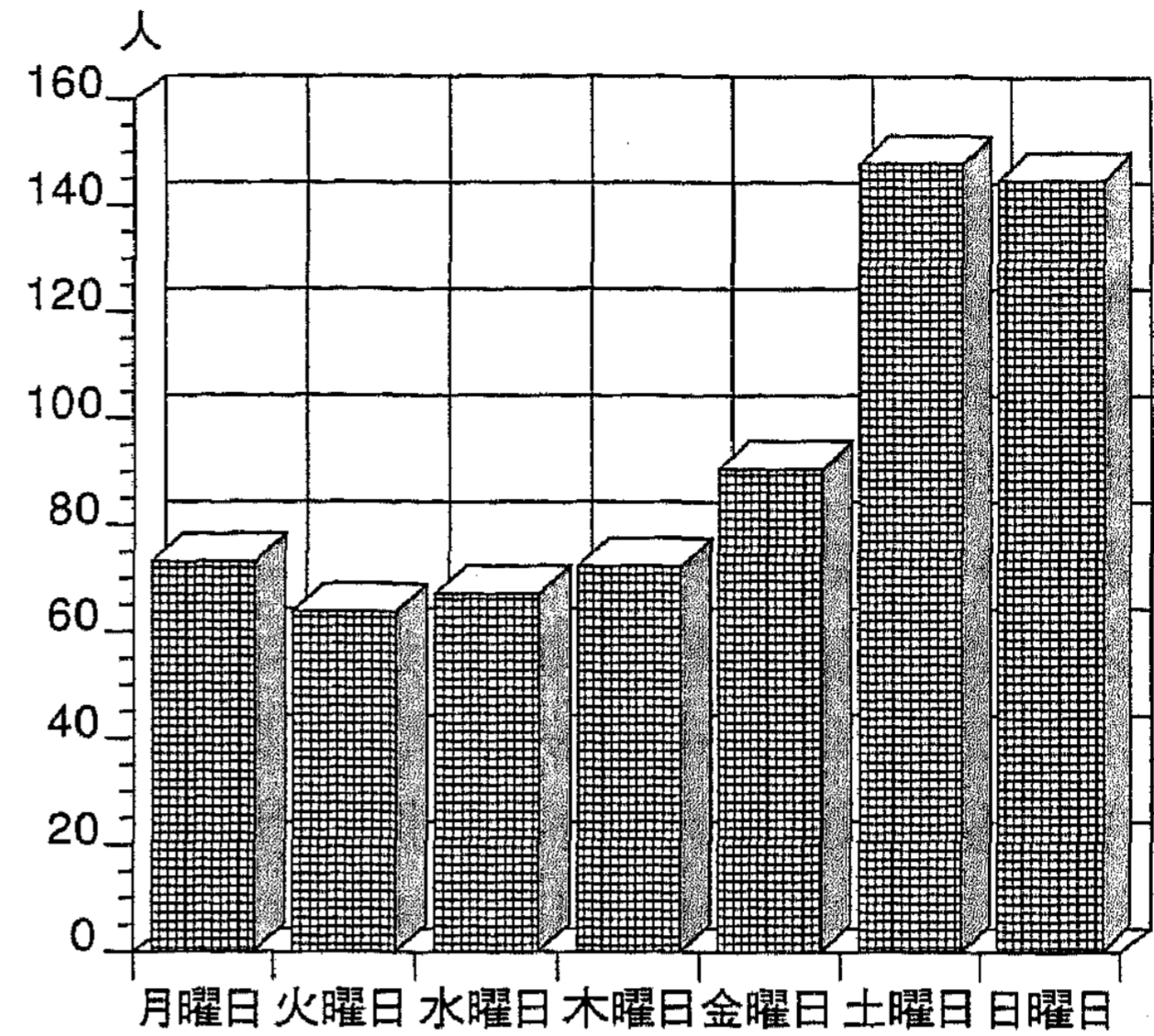


図4 曜日別症例数

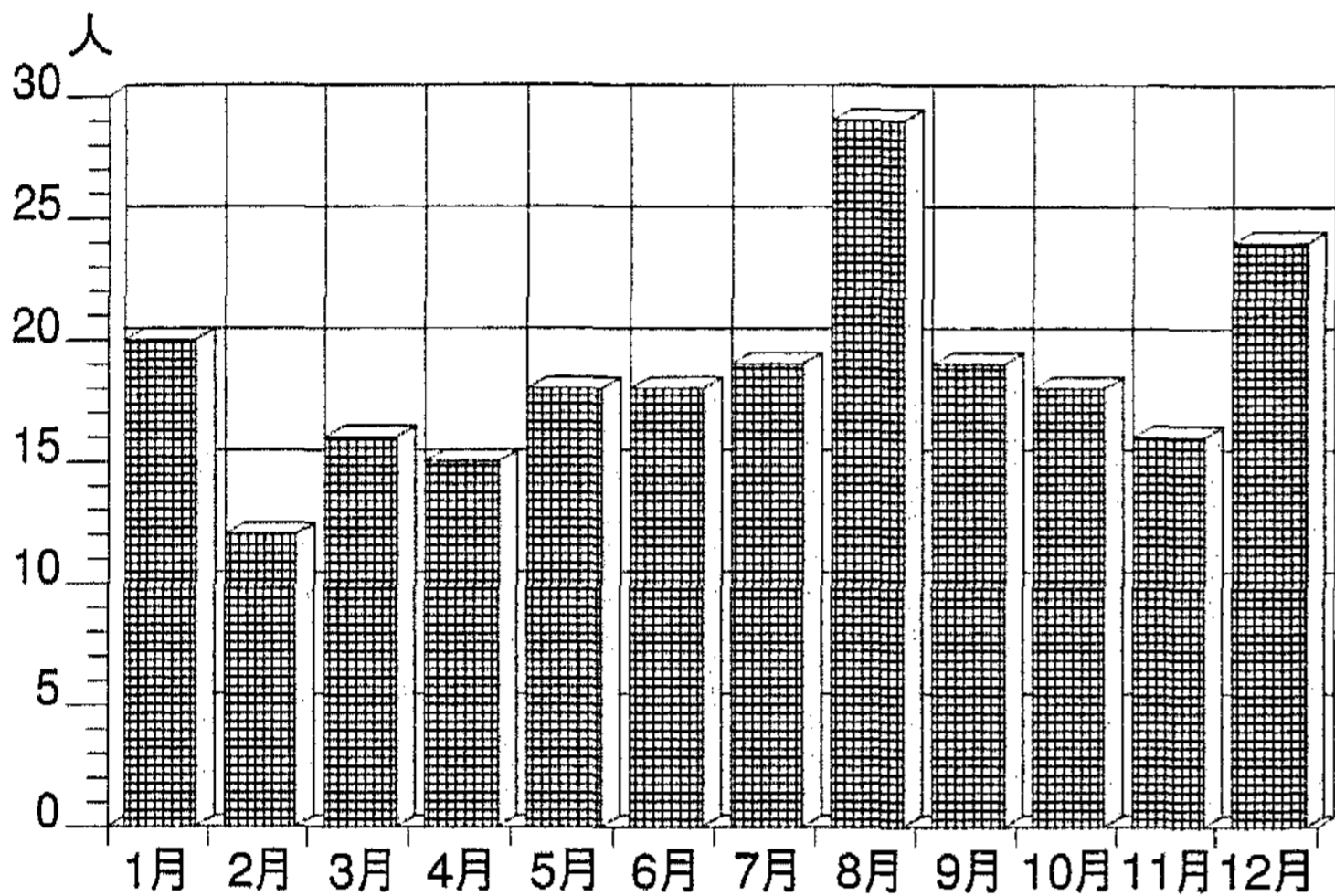


図3 月別症例数

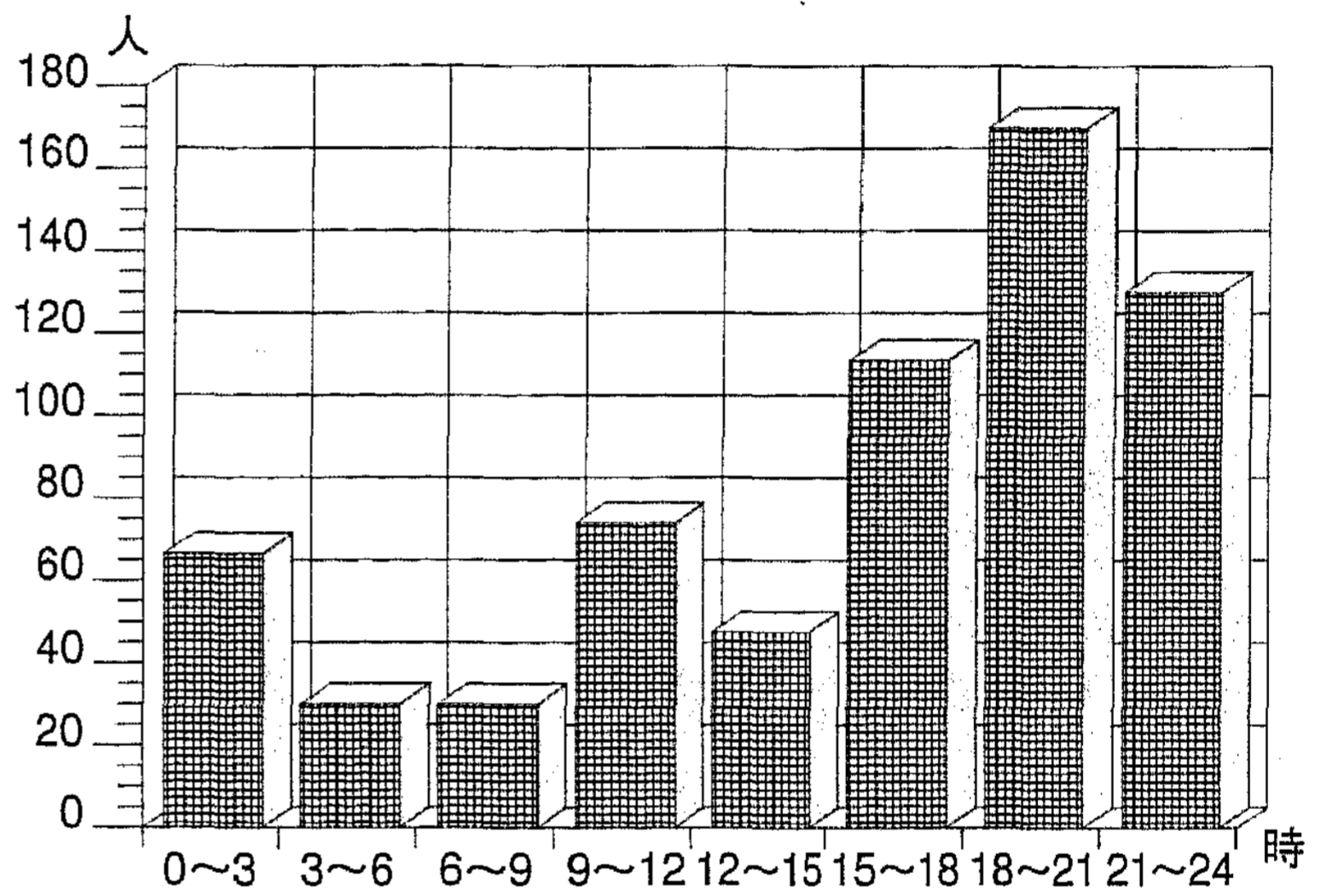


図5 時間別症例数

た。また平日では金曜日が91例（13.6%）と最も多かった。（図4）

6. 受診時間帯別症例数

時間帯を3時間毎に区切ってみると、平日では18時から21時が111例（16.6%）と多く、次いで21時から24時が84例（12.6%）であった。土曜、日曜日では18時から21時が60例（9.0%）で最も多く、次いで9時から12時が52例（7.8%）、21時から24時が47例（7.0%）であった。（図5）

7. 当科受診の既往

当科受診の既往については、今回初めて受診したものが539例と80.8%を占めていた。一方、当科にて治療中のものが89例（13.3%）、以前に当科に受診したことがあるものが39例（5.8%）であった。（図6）

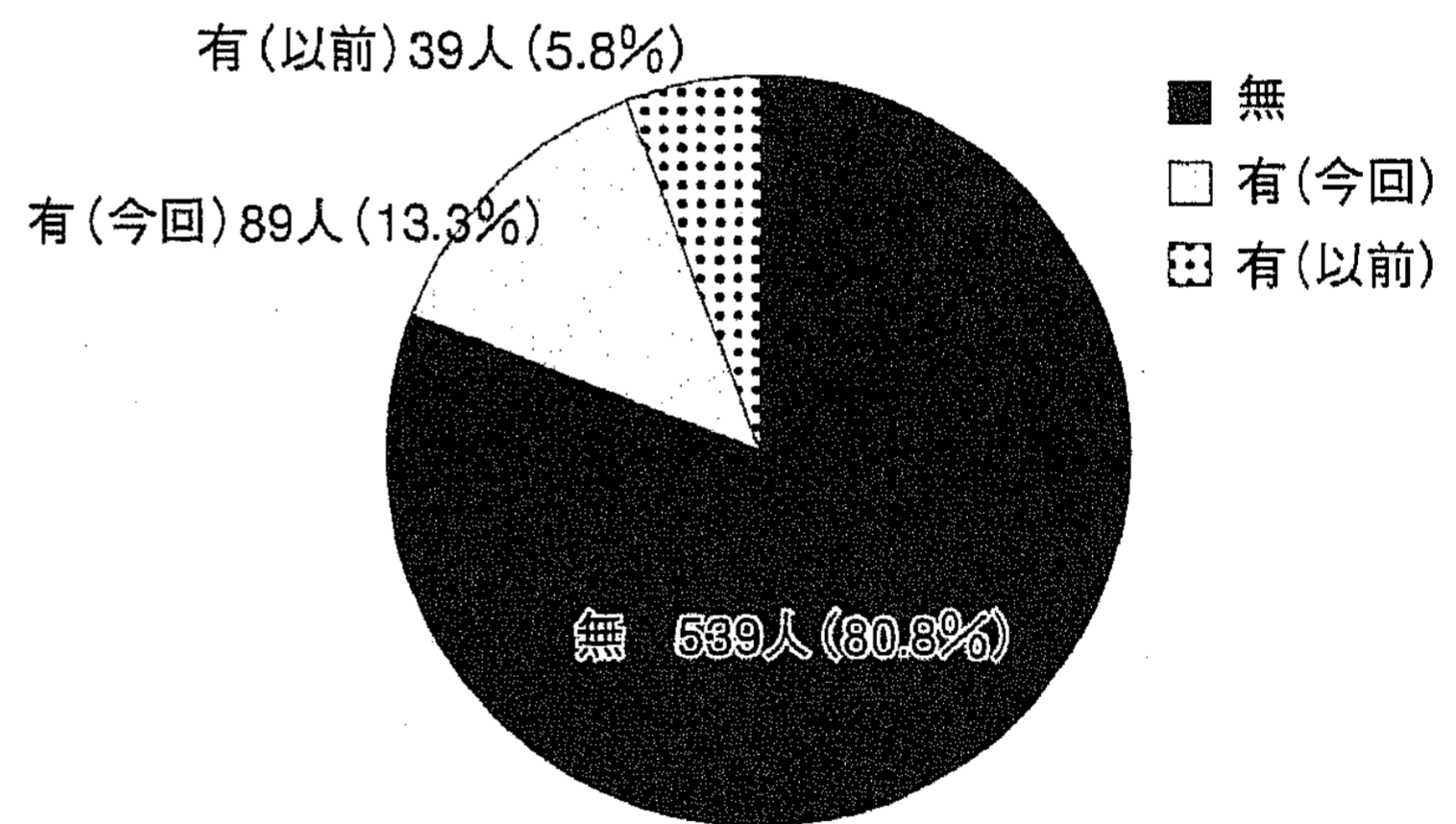


図6 当科受診の既往

8. 紹介医療機関別症例数

文書にて紹介され受診したものは、わずかに63例（9.4%）で、歯科開業医31例（4.6%）が最も多く、次いで一般病院が20例（3.0%）であった。直接救急外来を受診したものが604例（90.6%）とほとんどであった。（表1）

紹介医療機関	症例数
直接来院	604 (90.6%)
歯科開業医	31 (4.6%)
病院	20 (3.0%)
救急外来	(6)
外科	(6)
脳外科	(3)
内科	(2)
その他	(3)
医科開業医	6 (0.9%)
病院歯科・口腔外科	2 (0.3%)
その他	4 (0.6%)
計	667

表1 紹介医療機関別症例数

9. 主訴別症例数

主訴については、重複もあるが、自発痛が295例(44.2%)と最も多く、次いで出血203例(30.4%)、腫脹ないし腫瘍95例(14.2%)の順であった。自発痛の部位は、歯に関係するものが128例で最も多かった。(表2)

10. 診断

診断については、軟組織損傷が141例(21.1%)と最も多く、歯の損傷58例(8.7%)、歯の損傷と軟組織損傷が合併したものの47例(7.0%)、顎骨骨折28例(4.2%)、打撲17例(2.5%)を含めた外傷性疾患が291例で全体の43.6%を占めていた。炎症性疾患では145例21.7%であった。齲蝕(歯髄炎)も74例(11.1%)あった。(表3)

	症例数
自発痛	295 (44.2%)
出血	203 (30.4%)
腫脹・腫瘍	95 (14.2%)
開閉口障害	36 (5.4%)
歯の動揺	30 (4.5%)
咬合不全	8 (1.2%)
咬合痛	6 (0.9%)
その他	26 (3.9%)

※重複あり

表2 主訴別症例数

	症例数
軟組織損傷	141 (21.1%)
齲蝕	74 (11.1%)
歯の損傷	58 (8.7%)
歯+軟組織損傷	47 (7.0%)
歯周炎	40 (6.0%)
智歯周囲炎	39 (5.8%)
抜歯後出血	34 (5.1%)
抜歯後疼痛	33 (4.9%)
顎骨骨折	28 (4.2%)
顎関節脱臼	24 (3.6%)
蜂窩織炎	18 (2.7%)
打撲	17 (2.5%)
下顎骨骨炎	16 (2.4%)
顎関節症	12 (1.8%)
口内炎	11 (1.6%)
上顎骨骨炎	10 (1.5%)
外傷・抜歯以外の術後出血・後疼痛	6 (0.9%)
ガーゼ脱落	6 (0.9%)
血腫	5 (0.7%)
術後感染	5 (0.7%)
その他	43 (6.4%)
計	667

表3 診断

11. 処置

処置については、軟組織損傷141例中80例が消毒のみで、縫合を行ったものが45例、投薬したものが16例であった。歯の損傷については、58例中、特に処置せず経過観察を行ったものが28例あったが、歯の脱臼の診断で再植固定を行ったもの9例、整復固定を行ったもの6例であった。当日入院処置を必要としたものが40例(6.0%)あり、そのうち口腔外科に入院となったのは、35例(5.2%)で、他科入院扱いとし、当科で処置を行ったものが5例であった。

考 察

当院の救急外来は休日、夜間は当直医5~6名(救急責任当直医、内科系当直医、外科系当直医、ICU当直医、NICU当直医-小児科、輪番当直医)で対応し、各科が常時拘束医を置く体制をとっている。当科においては、休日、夜間は、拘束医1名を決め、当直医より連絡があった場合、必要に応じて救急診療を行うことにしている。

当院における時間外受診患者は、1997年度が11,963人、1998年度が13,761人、1999年度が15,508人、2000年度が15,670人と、毎年増加傾向にあり、歯科口腔外科においても同様に年々増加してきている。これは近年の社会活動の時間帯の多様化と救急外来を受診することへの抵抗感の減少を反映していると思われる。また不安を覚えたら即受診する患者が増えてきたためと考えられる。

時間外受診患者の年齢をみると、20歳代と10歳未満が圧倒的に多く全体の約半数を占めており、当科の時間外受診患者の年齢分布は他施設^{1,2)}の年齢分布とほぼ一致していた。これは20歳代は社会的な活動性が高く外傷が多いこと、日常の活動時間帯が夕方から深夜にまで及んでいるためと思われる³⁾。10歳未満では転倒等による予想外の受傷が多く、また窪田ら⁴⁾が指摘しているように少子化の進行、養育への関心の高まり、育児不安、日中共働きによる両親不在などから時間外受診率が高かったと思われる。

性別については、男性の方が女性より多く、他施設の報告^{1,2,5)}と一致していた。この点に関しては、社会的に女性の方が時間的余裕があり時間内受診可能な場合が多いこと、男性は社会的活動性が高く、外傷が多かったことより男女比の差が生じたと思われる。

来院方法については、救急車で搬送されたものは35例でわずか5.2%であった。当院で同期間の時間外に救急車を利用した救急患者5217例のうち0.7%であった。これは受診理由が口腔領域に限局しており、全身的影響がない場合が大部分であるためであった。救急車を利用した者はほとんどが骨折等の入院処置を必要としており、近年問題となっている安易な救急車の利用者はみら

れなかった。

患者の居住地については、当院所在地の長野市が76.9%を占めていたが、市外からの受診者も18.2%あり、市内外ともに救急医療の中核となっていると思われた。県外も4.9%あったが、その多くは県外からのスキーヤー、スノーボードの外傷患者であった。

月別平均では8月が最も多く、次いで12月、1月の順であった。8月は開業医がお盆休みがあること、12月、1月は当院が年末年始の休みであることより受診者が多くなったと考えられる。

曜日別では、土曜、日曜日が多かった。これは第2、第4土曜日と毎週日曜日が病院の外来業務を行っていないためでもあるが、平日で外来業務を行っていない時間帯を比較しても、土曜、日曜日の方が受診者が多い傾向がみられた。平日では金曜日が多かった。翌日休診への不安感も要因の一つとして考えられる。

時間別では平日は就学、就業時間の後にあたる18時から24時の間に集中していた。特に深夜帯ではその時間を活動時間とする10歳代、20歳代の受診が多くを占めていた。土曜、日曜日では平日同様に18時から21時が多いが、9時から12時の受診も多かった。

当科受診の既往については、今回救急外来を初めて受診したものが8割を占めていた。そのなかには歯科開業医にて処置後、疼痛、出血等のなんらかの問題を生じ受診に至ったものも含まれていたが、これは地元歯科医師会では、日曜、祝日の午前中だけしか、当番制の緊急医療体制をとっていないためと考えられる。今回当科で処置し、帰宅後問題を生じ再受診したものも13.3%あり、抜歯後出血、疼痛を主訴とするものが比較的多かった。

紹介医療機関の内訳は、他医療機関からの紹介による来院はわずか9.4%であった。これは、当科⁶⁾における平成10年度の新患患者の紹介率34.6%と比較してかなり低率であり、救急外来受診を第一選択と考えているものが多いと思われる。

主訴については、自発痛が44.2%と最も多かった。自発痛を主訴にするものの中には、以前から自発痛を自覚しながら鎮痛剤内服で放置していた例も多くみられた。時間内受診は難しい社会的状況と、治療に対する必要性の意識の低さがみられた。また転倒による10歳未満の口腔内軟組織損傷が多かったためか出血も30.4%と高い比率を示した。

診断については、軟組織損傷、歯の損傷、歯および軟組織損傷、顎骨骨折、打撲等と合わせると外傷が全体の43.5%を占めており、外傷の比率は、中村⁵⁾大西²⁾の報告と一致していた。軟組織損傷については約半数が特に処置を必要とせず経過観察となった。軟組織損傷に次いで多かった齶蝕については、96.9%が鎮痛剤処方のみであった。当科は、開設時より一般歯科治療を行わない

こととしており、地元の人達にも理解されているが、深夜疼痛ががまんできず、やむを得ず来院するものと思われる。また、歯の損傷についても約半数が当日特に処置を必要とせず経過観察であった。このように、救急外来にて処置をせず、経過観察や処方のみとなったものは、当科の拘束医が呼ばれることはなく、救急当番医が対応したものがほとんどであり、比較的軽症であっても受診する傾向がみられた。一方、歯の脱臼、顎骨骨折、抜歯後出血については、その多くが当科拘束医に連絡があり、救急外来における口腔外科の役割が認識されていると思われた。

入院の有無については、即日入院が必要となったものが6.0%あり、顎骨骨折を中心とする外傷と、内服薬では消炎困難な炎症であった。

結 語

今回私達は、1997年6月から2000年5月までの最近3年間に、当院を時間外に受診した歯科口腔外科疾患659名、667例について臨床統計的観察を行い、次のような結果を得た。

1. 年齢では20歳代が最も多く、次いで10歳未満、10歳代の順であった。性別では男性が女性の約1.5倍であった。
2. 来院方法は救急車で搬送されたものは、わずか35例5.2%であった。
3. 患者の居住地は長野市が507名で76.9%を占めていた。
4. 月別では8月が最も多く、次いで12月、1月の順であった。
5. 曜日別では、土曜、日曜日が最も多く、平日では金曜日が多かった。
6. 時間別では平日、土曜、日曜日とも18時から21時の時間帯が最も多かった。
7. 当科受診の既往については今回初めて受診したものが539例80.8%であった。
8. 文書にて紹介され受診したものは63例9.4%であった。
9. 主訴については、自発痛が最も多く、次いで出血、腫瘍ないし腫脹の順であった。
10. 診断は、軟組織損傷が最も多く、顎骨骨折を含めた外傷が43.5%を占めていた。
11. 即日入院を必要としたものは、40例6.0%であった。

引用文献

- 1) 藤林孝司, 福田瑞恵, 後藤聡, 塩田芳美, 佐々木忠昭, 横倉幸弘, 今井裕: 獨協医科大学病院救急

- 外来における歯科口腔外科疾患の臨床統計. 栃木県歯科医学誌, 49:13-17, 1997
- 2) 大西真, 大山登喜男, 堀浩美: 当科における最近3年間(1987~1989)の救命救急センター受診患者について(抄). 新潟歯学会誌, 20:195-196, 1990
- 3) 北川原香, 横林敏夫, 清水武, 五島秀樹, 鈴木理絵, 田尻朗子: 最近2年間の顎顔面口腔外傷疾患の臨床統計的観察. 長野赤十字病院医誌, 13:18-22, 1999
- 4) 窪田博道, 阿部習子, 在田友子, 鈴木好文: 平成8年度の小児科における時間外患者に関する検討. 新潟県厚生連医誌, 9:33-37, 1999
- 5) 中村薫央, 岸廣彦, 兒野喜穂, 関口裕子, 清水克明: 帝京大学医学部附属病院歯科口腔外科における救急外来患者の臨床的考察(抄). 日口外誌, 48:616, 1999
- 6) 鈴木理絵, 横林敏夫, 清水武, 五島秀樹, 田尻朗子: 長野赤十字病院口腔外科における紹介患者の臨床統計的観察. 新潟歯学会雑誌, 31:21-28, 2001